

令和5年度中南米・北米移住者子弟研修受入事業

(結果概要)

福島県生活環境部国際課

1 目的

福島から中南米・北米に移住した者の子弟が、県内での研修や交流を通じて自らのルーツや本県への理解を深めることにより、本県と母国の架け橋として、将来、母国の福島県人会の中核を担い活躍できる人材を育成する。

また、滞在期間中、本県の魅力や東日本大震災及び原発事故からの復興状況を実際に見てもらい、帰国後に母国において積極的かつ正確な情報発信を行ってもらおう。

2 実施日

令和6年1月24日(水)～2月1日(木) 9日間

3 参加者

(1) 研修生4名(アルゼンチン1名、ブラジル1名、米国2名)

- ・在亜福島県人会 1名
- ・北伯福島県人会 1名
- ・シアトル福島県人会 1名
- ・北加福島日系人会 1名

(2) 同行者 ※一部日程のみ

- ・県費留学生 2名(ブラジル2名)
- ・県国際課職員

4 研修内容

- (1) 県内視察(復興状況視察、一般視察)
- (2) 知事表敬/福島県海外移住家族会会長表敬
- (3) 日本文化体験
- (4) ホームステイ
- (5) その他

5 研修日程

日程	内容	宿泊先
1月24日(水)	成田空港着	(東京都)
1月25日(木)	東京都内視察	(郡山市)
1月26日(金)	福島の現況説明 福島県農業総合センター 奥の松酒造 うちわ漉き体験(道の駅安達(和紙伝承館))	(ホームステイ)
1月27日(土)	ホームステイ	(ホームステイ)
1月28日(日)	ホームステイ	(福島市)
1月29日(月)	意見交換会 知事表敬 福島県海外移住家族会表敬 野口英世記念館	(会津若松市)
1月30日(火)	鶴ヶ城 会津藩校日新館	(浪江町)
1月31日(水)	震災遺構浪江町立請戸小学校 東日本大震災・原子力災害伝承館 トロピカルフルーツミュージアム Jヴィレッジ ふたば未来学園	(楡葉町)
2月1日(木)	いちご狩り 成田空港より離日	

研修 1 日目 1 月 2 4 日 (水)

■成田空港(入国)

- ・研修生が各国から成田空港に到着した(1名のみ、諸事情で翌日の到着となった)。
- ・長時間のフライトや時差により疲れが見えたものの、研修生たちはすぐに打ち解け、これからの研修を楽しみにしている様子がうかがえた。

研修 2 日目 1 月 2 5 日 (木)

■東京都内視察

- ・例年訪問している横浜市の海外移住資料館が設備改修工事により休館中であったため、今回は東京都内の視察(浅草、スカイツリー)を行った。



東京都内視察の様子

研修 3 日目 1 月 2 6 日 (金)

■ 福島県の現況説明(福島県農業総合センター)

- ・県の国際交流員から福島県の概要について英語で説明。
- ・食を始めとする福島県の魅力や震災及び原発事故からの復興の状況について学んだ。



県国際交流員による本県の現況説明

■ 福島県農業総合センター

- ・震災及び原発事故後の放射性物質の除去・低減に対応する取組や、食の安全・安心を確保するためのモニタリング検査の状況等について説明を受けた。
- ・県オリジナル品種(ゆうやけベリー(いちご)、べにこはく(りんご))の試食も行い、海外と比べた果物の甘さに驚いていた。



農業総合センター所長による歓迎あいさつ



モニタリング検査に関する説明の様子



県オリジナル品種の試食

■ 奥の松酒造

- ・奥の松酒造を訪問し、酒の造り方や施設の説明を受けた。
- ・日本酒や果実酒の試飲(成人のみ)も行い、日本酒の味の違いや果実酒のフルーティーな味わいを楽しんでいた。見学後は好みの日本酒などを購入していた。



施設見学の様子



試飲の様子

■道の駅安達 二本松市和紙伝承館(うちわ漉き体験)

- ・1000年以上もの歴史がある上川崎和紙の手漉き体験を行った。
- ・型に和紙の材料を流し込み形を作り、その後、好きな模様を描きオリジナルうちわを作成した。



和紙の原料を流し込み



完成したうちわ

研修4日目、5日目 1月27日(土)、28日(日)

■ホームステイ

- ・親戚宅やボランティア宅でホームステイ。
- ・ホストファミリーと一緒に様々な日本文化に触れる経験をした。

研修6日目 1月29日(月)

■意見交換会

- ・県庁において国際課職員と意見交換会を実施。
- ・昨年度の研修生と同様に、農業総合センターで食べたいちごの美味しさや、原発事故後の食品の安全性確保に向けた取組を学べたことが印象に残ったとの声が多かった。そのほか、ホームステイで親戚に会えたことが楽しかったとの声もあった。
- ・本事業は海外の県人会と福島との繋がりを保つために重要であるという意見をもらうとともに、帰国後は、現地のイベント等において福島の魅力や現状を発信したいと意気込みを語っていた。



意見交換会の様子

■知事表敬

- ・内堀雅雄知事を表敬訪問し、研修生から研修で印象に残ったことなどを紹介した。
- ・知事からは、歓迎の言葉や、研修を通じて福島を好きになってほしいとの言葉があった。



表敬の様子

■福島県海外移住家族会会長表敬

- ・佐藤憲保福島県海外移住家族会会長を表敬訪問し、福島県を訪れた感想等について懇談した。
- ・会長からは、福島の魅力を経験し、帰国後に周りの人へ発信して欲しいとの発言があった。



表敬の様子

■野口英世記念館

- ・記念館についての概要を聞いた後、野口英世博士の生家などを見学。
- ・南米や北米で活動した野口博士の生い立ちや功績について学んだ。



見学の様子

研修 7 日目 1 月 3 0 日（火）

■ 鶴ヶ城

- ・ 冷え込む天気の中、鶴ヶ城を見学。
- ・ ガイドの説明を興味深く聞きながら敷地内を散策し、会津の奥深い歴史や文化に触れていた。



見学の様子

■ 会津藩校日新館

- ・ 日新館では、江戸時代の学校の様子や学習内容、授業風景などの説明を受けながら見学した。
- ・ また、日本文化体験として、弓道体験や赤べこの絵付けを行った。



弓道体験の様子



赤べこの絵付けに挑戦

研修 8 日目 1 月 3 1 日（水）

■震災遺構浪江町立請戸小学校

- ・震災遺構として2021年10月に一般公開が開始された請戸小学校を訪問した。
- ・津波の被害に遭った震災当時の姿がそのまま保存されている校舎を興味深そうに見学していた。



見学の様子

■東日本大震災・原子力災害伝承館

- ・未曾有の複合災害が発生した当時の状況や県民の思いを展示物等を通じて学ぶとともに、原子力災害に伴う住民避難の経過や除染による環境回復の取組等への理解を深めた。



スタッフから展示物の説明を受ける



津波の力で大きく変形した消防車

■トロピカルフルーツミュージアム

- ・震災・原発事故からの農業・地域再生に向け、国産バナナ「綺麗」の栽培等に取り組むトロピカルフルーツミュージアムを訪問。
- ・バナナ栽培に至るまでの道のりや現在の取組について説明を受け、復興までの道のりの難しさや粘り強く挑戦を続ける県民の姿について学んだ。



同施設の取組について説明を受ける



バナナの栽培施設を見学

■Jヴィレッジ

- ・本県復興のシンボルであるJヴィレッジを訪問。施設見学を通じながら、震災当時の様子や復興までの道のりについて理解を深めた。
- ・また、日本文化体験の一環として寿司握り体験を行った。細かな手の動きに苦勞しながらも一生懸命お寿司を握り、自分で作ったお寿司を美味しそうに食べていた。



スタッフから施設の説明を受ける



寿司握りに挑戦

■ふたば未来学園

- ・ふたば未来学園で高校生との交流を行った。
- ・3月に米国での研修を予定している生徒とグループディスカッションを行い、終始和やかかつ活発にコミュニケーションが行われ、交流後は互いの連絡先を交換するなど友好を深めていた。



交流の様子

研修 9 日目 2 月 1 日（木）

■いちご狩り

- ・最終日はいわき市内でいちご狩り体験を行った。
- ・研修も 9 日目で研修生に疲れが見えたが、美味しいいちごを頬張り元気を取り戻していた。



いちご狩りの様子

■成田空港(帰国)

- ・研修生たちはバスの中で 9 日間行動を共にした仲間たちと最後の別れを惜しみ、成田空港の第 2 ターミナルから母国へと戻っていった。



成田空港前で最後の記念写真

結びに

9 日間の研修を通じて、研修生が福島県の魅力や現状について理解を深めるとともに、同じ福島県にルーツを持つ在外県人会の若手同士が交流する絶好の機会となり、研修生の間でもかけがえない絆が生まれた。

研修生には、今回の研修を通じて自分たちが実際に福島県へ足を運び、自ら見て、聞いて、感じたことを母国に戻り積極的に発信するとともに、現地県人会と本県との架け橋として今後も活躍していくことを期待したい。